



「考働レポート2016」の記述をふまえ、
株式会社マダムおよび国内外の関係会社の活動に関して、
第三者意見を述べます。

立教大学経営学部 教授
高岡 美佳 氏

〈評価できること〉

マダムの「考働レポート」に第三者意見を寄せるのは、今回で3回目となります。「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」というマダムグループの基本理念が明確に反映された良いレポートだと思えます。また、国内外の社員を中心とするステークホルダーの声が数多く掲載されており、顔の見える報告書となっている点も特徴です。

今回のレポートで最も評価したいのは、次の2点です。まず第一に、同社は、2015年4月にCSR推進部を新設しました(P.10)。また同年9月には、「国連グローバル・コンパクト」に参加し、国連グローバル・コンパクトが提唱する4分野10原則への支持を表明しています(P.10)。CSRはトップマネジメントや社員がしっかりと社会貢献意識を持っていれば相当程度は推進できるものですが、持続的かつ安定的にCSRを展開していくためにはそれを支える制度や仕組みが必要となります。今回のCSR推進強化のための仕組みの整備に、同社のCSRに対する本気度を見て取ることができます。評価したいことの二つめは、2015年12月にマダムグループとして初めてCSR重要課題を特定したことです(P.11~15)。さらに、本レポートでは、ISO26000の7つの中核主題を参考に選定した重要課題14項目に沿って事業活動がわかりやすく整理されています。正直に申し上げて、1年間でここまでレポートのレベルが向上したことに驚いています。マダムグループは、アジア11の国と地域で事業を展開し、連結売上高の4割以上を日本国外の売上が占めるグローバル企業体ですが、ISO26000の枠組みを活用することは、同社の国内外でのCSRを含む事業活動の発展に大いに貢献するでしょう。マダムのCSRに対する真摯な姿勢を高く評価したいと思います。

特集1(P.16~19)では、2015年7月にインドネシア工場で発生した火災事故の概要とその後の対応が報告されています。報告を読む限りでは、事故原因を究明して再発防止策を講じると

ともに、被災者への対応やご家族・ご遺族へのサポートを手厚く行っているようです。痛ましい事故ではありましたが、「労働における安全衛生の向上」に関わる特集記事として正面から取り上げて情報を公開するとともに、反省を活かして今後の安全な職場づくりに努力することを示した点は評価に値するでしょう。

特集2(P.20~23)では、ユニバーサルマナー講習の様子が掲載されています。講習の実施以外にも、2015年4月に「ダイバーシティ推進室」を新設(P.32)するなど、マダムにおけるダイバーシティの理解と推進はこの1年で飛躍的に進んだ印象を受けます。企業が社会と共生するために、そして、個性あふれる多様な人財を活用するために、「多様性」「異質性」を理解・尊重することは大切です。今後も継続的に推し進めていただくことを期待します。

その他、2015年度は大阪大学大学院 薬学研究科との再生医療技術を応用した化粧品開発や動物実験代替法の確立に向けた基礎研究がスタートしました。トップメッセージにあるように、変化が激しい時代こそ、対症療法を重ねるのではなく足元を見つめる必要があります。マダムらしさを追求しつつ、人々の本質的なニーズを満たして社会のストックとなる事業を見つけ出し、アジアにおけるリーディングカンパニーを目指していただきたいと思えます。

〈期待したいこと〉

2015年度は国内全事業所におけるゼロエミッションを達成するとともにマイクロプラスチックビーズ使用中止の方針を固め(P.42)、2016年5月に環境理念を改訂するなど(P.39)、マダムは地球環境保全意識の高い企業だと感じます。ただし、福崎工場での水使用量や物流におけるCO₂排出量は増加しているようです。生産数量の増加に起因することは理解できますが、次年度は可能な限り改善していただくことを期待します。

読者の皆さまへ



株式会社マダム
取締役 専務執行役員
人事・リソース統括、総務部、
CSR推進部、法務室担当
(PT MANDOM
INDONESIA Tbk
取締役会長)
北村 達芳

2015年7月10日にインドネシアで発生した工場火災事故について、多くの関係者の皆さまにご迷惑とご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。本事故の重大さを厳粛に受け止め、原因究明と再発防止策の徹底、被災した従業員とご家族、ご遺族に対する救済をCSRの最重要課題と位置づけ、今後もマダムグループの総力をあげて取り組んでまいります。

2015年度は、マダムグループのCSR推進の節目の年となりました。4月にCSR推進部を新設、9月24日に国連グローバル・コンパクトに署名、12月にはマダムとして初めてCSR重要課題を選定、2016年1月にはWEBサイトにCSR情報ページを開設し、ISO26000やGRIガイドライン(G4)を参考に情報を追加・整理したほか、最新のCSR情報をよりタイムリーに公開できる仕組みを整えました。

CSR重要課題については、現在、初版として選定した14テーマの取り組みを進めていますが、今後も社外の方々からのご意見をうかがいながら内容のレベルアップと継続的な改善を図るとともに、バックキャストによる中長期視点での目標設定とPDCA体制の確立を図ってまいります。

今回、特集記事として工場事故とその後の対応についてレポートさせていただきましたが、インドネシアで行った慰霊祭の背景にあるインドネシア語の「DOA BERSAMA KELUARGA BESAR」とは「大きな家族と一緒に祈りましょう」といった意味です。来期、マダムグループは、1927年12月の創業から数えて90周年を迎えます。わたしたちは、次の100周年を見据えたビジョンを策定し、大きな家族の一員として国際社会から期待されるCSRを追求・実践してまいります。